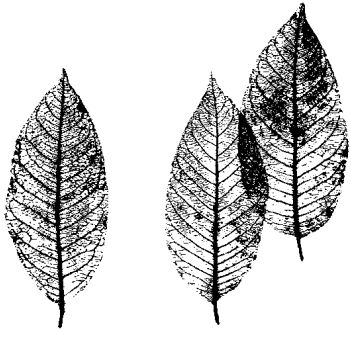
★昆虫おもしろブック

驚き!! ムシたちのとんでもない生き方

矢島 稔
松本零士

知恵の森文庫

知恵の森文庫



昆虫(こんちゅう)おもしろブック 驚き!! ムシたちのとんでもない生き方

矢島稔(やじまみのる) 松本零士(まつもとれいじ)

2004年7月15日 初版1刷発行
2005年7月30日 2刷発行

発行者—古谷俊勝
印刷所—秋原印刷
製本所—フォーネット社
発行所—株式会社光文社
〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6
電話 編集部(03)5395-8282
販売部(03)5395-8114
業務部(03)5395-8125
振替 00160-3-115347

© minoru YAJIMA / reiji MATSUMOTO 2004

落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。
ISBN4-334-78301-5 Printed in Japan

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

昆虫のもしらっぷ

驚き!! ムシたちのたんけんやぼうけん

矢島稔　松本零士

江苏工业学院图书馆
藏书章

知恵の森文庫

光文社

再文庫化にあたって

この本が初めて書店に出た頃、未だワープロやパソコンは無かった。
それが次々に進化し形を変え今はケータイでテレビが見られる。この先どこまで行くのか市民には見当もつかない。これ程日本は変わった。
という事は毎日の生活も大きく変わってしまった。とにかく忙しく、うっかりしていると世の中から置きざりにされるから、こっちも機械を使いこなして、居ながらにして物を買い、情報を得て暮らしを楽にしようとしている。
すわってキーをたたけばほとんどの用は間に合う。
まったく、つい最近までこんな事は考えられなかった。つまり天国といっても言いすぎではないだろう。
ところがチョウやトンボ、それにハチやキリギリスはどうだろう。
もちろん姿形も同じだし、生活もまったく同じだ。ここでふと気がついた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

松本零士さんは昆虫少年だったから昆虫をよく知っている。その体験を元に人間くさいチョウのレディやバッタの兵隊を書いてくれたのだが、その絵は昔のままで何の抵抗もない。むしろ現代に通じる新鮮な魅力さえ感じられる。

環境といえば自然の住み家のことを云う場合が多いが、人間はまず道具を巧みに変えはじめた。次に家を変え、車をもち三十年前の暮らしなど想像すら出来ないような中で優雅？に生活している。

昆虫の方は針の先ほどの脳を使ってはいるが環境を変えることは出来ないから昔のままの場所で昔ながらの生活を送っている。

ところが「住み家」だった場所を次々に人間に占領され、都会にはちょっとした原っぱや小川や池もあったがそれもなくなった。

場所が無くなるのは昆虫に死ねというのと同じだ。

〝気持ちが悪い虫〟がいなくなって、さっぱりしたと思う人が多くなったら、「いじめ」「引きこもり」、考えられないような殺人事件が多くなり、その上世界のあちこちでテロと戦争が続くようになった。

なぜだろう。原因はいろいろあるだろうが小さい頃トンボを追いかけたり、セミを捕って遊んだことのない大人がふえ、相手のいたみが分からない人間になってしまったからで

はないだろうか。

そういう人に限って、自分に都合のいいものだけを欲しがる。近頃のはやりは〝ホタルと星と花火〟だそうだ。

ホタルがどういう環境で一生を送り、はかない成虫期間に恋をし卵をのこしているか等知ろうともしないカップルが唯その光に甘いささやきを交わす人類に未来はあるだろうか。

この答えは最後のページに松本さんがスケールの大きい絵にしてくれている。

ただ、こうなるまでの虫たちのくらしをプロローグからじっくり読んでいただこう。

矢島（やじま）　稔（みのる）

はじめに

身近な生きものといえば、まず昆虫があげられる。チョウは美しいし、ホタルを見るためにわざわざ遠くへ出かけることもある。

しかし一方では、イモムシ、ケムシは見たくないし、へっぴりムシのガスはいやだし、ハチに刺される恐怖はついてまわる。

こうした悪い面だけがニュースになり、ついでに昔からの〝害虫〟イメージが加わって、ムシがきらいな人たちがふえてしまった。

その上、自然を守るのは採集しないことだという風潮が広まって、本当に保護しなければならない昆虫は絶対に採ってはいけないのだが、モンシロチョウも採ってはいけないということになって、とうとう昆虫は遠くから見るものになってしまった。

小さい頃、バッタを獲ると口から出す汁が指について、とても臭い思いをしたり、アゲハの幼虫をつつくと黄色い角を出すのをおもしろがったりした経験をもつ人は、そういう

動きで虫や自然を知り、結局、人間の存在まで考えるようになった。

昆虫はじかに触れないと、何も教えてくれない。つまり『昆虫記』がおもしろいのはファーブルが自分で観たり、ためしたりしたことを読んで、自分もそこで擬似体験をしているように思う。これがファーブルのうまさなのだ。

この本は少し内容をおもしろくし、漫画家の松本零士さんに人間くさい絵を描いていただいた。松本さんも熱烈な昆虫少年だったから本質をついた、その上おもしろい内容に昇華させた絵をたくさん入れてくれた。

人の顔をしたアリやカマキリ、妖艶なホタルの精は、じっと見つめた人の心に生まれてくる「愛すべきムシたちのイメージ」である。

こうしたイメージと向きあい、語りあうとき、昆虫たちは豊かな表情を見せ、面白いしぐさをこっそり教えてくれる。

松本さんはこういうつきあいのできる人だし、それを絵にできる才人だから、誰も描いたことのない昆虫たちの姿を紹介してくれたのである。

昆虫を知りたい人、楽しんでみたい人、今までは好きになれないと思い込んでいた人たちに、とにかく読んでいただきたい。

そして野外でほんものに会ってほしい。ほんものはそっけなく、照れ屋で逃げ出すが、

みんないいヤツで、しだいに正体を現わしてくれる。だって昆虫は人間の何十倍も大昔から世代を重ね進化している大先輩だから、環境の変化に敏感で、生き残る術をいくつも知っている。自分に合った生き方を知っている生き方の達人たちなのだ。

ただ、たずねなければ答えないし、人間だけしかわからない言葉を使ってはいない。

この日本語版、昆虫世界の不思議さとおもしろさをどうぞ堪能(たんのう)していただきたいと思います。

矢島　稔

昆虫おもしろブック◎目次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

再文庫化にあたって……3
はじめに……6
プロローグ——うらがえしの生きもの〝昆虫の世界〟に学ぼう！……15
1　チョウ
絶妙、木遁の術つかいたち……32
チョウに処女なし、売れ残りなし……39
チョウチョとるのに遠出はいらぬ、道に小便して待てばよい……46
これぞ廃物利用の極致、チョウのリンプン……53
スパルタ教育をするヒョウモンチョウ……56
ガンをなおす秘薬はアオムシの研究から……61
恋路をじゃまするシロオビアゲハ……68
不気味に光るガの目玉の謎……73
おどしのテクニック対だましのテクニック……78

2 カブトムシ

大相撲クヌギ場所、横綱はカブトムシ関……84
左官職人から武士に出世のカブトムシ……89

3 バッタ

仮面ライダーは恐妻家……98
第三帝国を築くファシストバッタ……103

4 アリ

おふくろ中心の大家族主義……110
地下の秘密奴隷帝国……117
アリにエサをねだるチョウの幼虫……124
正月に起きて働く、へそまがりのアリ……131
引っ越し魔のさすらいアリ……138
子をダシに使うアル中患者(?)のアリ……141

アリを獲(と)ったら二日待て……144

5 トンボ

ニッポン・トンボ列島改造論……152
トンボの目玉は、マルチ・ワイド・スクリーン……157
ウルトラCの空中交尾(セックス)……164
夕凪(ゆうなぎ)、朝凪(あさなぎ)、トンボの変身……169
これがトンボ撃墜(げきついほう)法だ！……174

6 スズムシ

外国人が書いた〝日本ムシ売り小史(しょうし)〟……180
ムシ飼い秘伝(ひでん)、ダニ殺し……185
〝鳴くムシ〟のマッチ箱式分類法(ぶんるいほう)……188
ムシは、リンゴと煮(に)干しで飼え……191
誰(た)がためにムシは鳴く？……198

7 セミ

「あの木は鳴くじゃないか！」……208
セミの鳴き声は、大砲の音よりすごい……213
セミの一生は、90パーセント以上が土の中である……218
セミの目は自動絞りカメラ……223

8 ハチ

産みっぱなしから集団保育型まで……228
ハチの世界は、人間社会より進歩している!!……235
虚々実々！　クロアナバチ対ヤドリバエ……238
怪盗ジガバチ……245
必殺仕掛人？　ベッコウバチ……250

9 ホタル

消えて行くともしび、ホタル……256

清らかなホタルの一生……259
ホ、ホ、ホタルよどこへ行く……264

10 カマキリ

花の中の忍者・カマキリ……270
カマキリのメスは、女の中の女!?……277
カマキリを飼う新案自動給餌器……282

11 ゲンゴロウ

快速艇・ゲンゴロウ号……288
子連れ残酷物語・コオイムシ……293
犬かきスイマー・ガムシ……298

本文イラストレーション・松本零士

プロローグ——うらがえしの生きもの〝昆虫の世界〟に学ぼう！

一匹のムシの中にすべてがある

いっさいが虫けらの中にある——ファーブルの言葉である。

南フランスの片いなか、セリニアンの村はずれに小さな谷がある。ある夏の朝、谷底の石に腰をおろし、かわいた地面の一点を見つめている男がいた。

三人のブドウつみの女が通りすぎていく。そして夕暮れどき、ブドウでいっぱいになったカゴを頭にのせて家路を急ぐ彼女たちは、また、その男を見かけた。

朝と同じ場所で、同じ石に腰かけて、熱心に地面を見つめている男……。

「お気の毒に……。頭が変なんだね……」

そうつぶやくと三人の女は、十字を胸もとできって去って行った。

私は、このエピソードが好きだ。彼こそ、私たちに有名な昆虫記十巻を残してくれた人、ファーブルその人である。彼の足もとの地面では、ひとりぼっちのカリウドバチ、ラング

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton